

筑後市の「地方創生」の取り組みは

貝田 晴義 議員

答 全体的な総合戦略としたい

るように、常設の市民会議を設けたらどうか。
総務部長 多様な意見を出してもらうことが好ましく、それぞれ得意分野を持った固定メンバーで構成されることから常設の市民会議設置は難しい。計画を策定する上では、人口ビジョンや国のデータ等を活用し、今後の方向を検討していきたい。

項目は定住促進であると考えて。政策推進のため「教育」を計画の核に位置づけるべきでは。
総務部長 国の基本目標に基づき戦略策定となっており、雇用、人口流入、若者世代の結婚・子育て等に「教育」も含まれるものとして全体的な総合戦略としたい。

問 「地方創生」に関して他計画と整合性が取れて

問 計画策定では重点項目に特化すべきでは

問 「地方創生」と「学校再編」を結びつける



「地方創生」に関する資料

問 総合教育会議が本年度からスタートした。これを含め数年間は市の重要課題の方向を決定する時期にあると思うが、「地方創生」と「学校再編」を結びつける考えは。
市長 まず、地方創生推進委員会を立ち上げ、委員会において総合戦略の柱を決めていきたい。「教育」については総合教育会議で検討したい。

交通弱者の移動手段の確保は

山下 秀則 議員

問 高齢化が進む中で、障がい者、低所得者、交通弱者に対し、いかに移動手段の確保を行政がサポートできるかが重要な時期にきていると思う。市の構想はどうか。

市長 コミュニティ自動車は、現在運行している下妻、古島校区と本年11月に運行を開始する松原校区である。古川校区は、現在具体的な検討に入っており、アンケート調査を行っている。6月中旬に回収し、分析した上で方向性が協議されると聞いている。市では、第四次総合計画後期基本計画において、コミュニティ自動車の運行地域を4か所まで広げる目標で進めている。

廃プラ収集回数増で分別意識アップを

問 集合住宅などの人たから、廃プラスチックがかさ張って置き場所に困っているとの声がある。現在、月2回の収集を週1回にできないか。

かんきょう課長 廃プラ収集回数のアンケートの結果、平成27年では「現在の月2回でよい」が、61・5%であった。今後、廃プラの排出方法として、裁断して重ねて出すなど、効率的な方法を研究していく。



すぐに袋がいっぱいになる廃プラ